

○7番 福田諒人君

僕は年々大型化していく災害に備えるために、平常時にできる準備について、質問したいと思います。

災害に対して、より多くの人たちが普段から避難訓練に参加したり、救急救命講習を受けることで、いざというときにより正しい行動がとれるようになっていと思っています。

最初に、避難訓練について質問します。

僕の学校では、年に2回、火災・地震などからの避難訓練を実施しています。最近は、地域的に海が近いため、津波に対しての屋上避難も実施されています。

最初の質問は、学校ではこのような訓練を行っていますが、他の学生ではない方々の避難訓練は、どのように行っているか、教えてください。

○議長 亀田ふみ君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 田中純君

お答え申し上げます。訓練は、様々なかたちでの避難訓練というものがあると思われまますけれども、今市として一番基本的に考えているのは、私どもの消防本部が救急あるいは救命の、あるいはそういう防災の講習を地域の自主防災組織に、あるいは区長さんが主催する区の行事等で講習会を行ったり、あるいは講演会を行ったりというようなことを年に数十回のペースでやっております。

したがいまして、地区の防災組織から要請があれば、いつでも消防を含めた防災の専門家が伺ってお話をするなり実演をするなりして、やられる体制はつくっております。

以上です。

○議長 亀田ふみ君

福田議員。

○7番 福田諒人君

ありがとうございます。僕は回答にあった自主防災組織のことを、この質問をするまで知りませんでした。災害から命を守るために多くの人に知ってもらいたいと思います。そのために行橋市は今後どのような方法で広報していきますか。

○議長 亀田ふみ君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 田中純君

お答え申し上げます。それは、まず市民のお一人お一人の方が、災害のとき、あるいは何らかの異変が起きたときにどう行動すべきか、というものを、私どもがお配りして

いるハザードマップという地図がありますので、それを毎日とは言いませんけれども、暇な折りにでもさあっと目を通しておいて、もし何かがあったら自分はこういう行動をする、家族はこういう行動をするというようなことを、たまには家族で話し合っていたらいい、いざというときに備えていただければいいんじゃないかなというぐあいに思っております。

また、さらにテクノロジーの進歩は我々が予想している以上に早いスピードで進んでいますので、例えば私も最近驚いたんですけど、テレビのdボタンというボタンがあるんですけど、大抵グリーンですけども、dボタンを押すと、その自治体の最低限の情報が流れるようになっています。かつて、今もそうですけども、台風なんかの時に防災無線が全く聞こえないというようなお話を市民の方から我々はよく伺ってまして、その際にどうすればいいのかなということで、いろいろ試行錯誤をやったんですけども、テレビは皆さん見ているので、テレビで表示ができるようになれば一番いいなというようなことで、dボタンの積極的な利用をお勧めしたいなというぐあいに思っています。

それからテクノロジーの進歩と言いましたけれども、今は皆さんもタブレットをもう既にお持ちだと思いますので、タブレットの通信機能を使ったりして新たなコミュニケーションの方法、あるいは訓練の方法等が可能になってくるんじゃないだろうかなと。そこら辺も積極的に皆さんのほうから、こういうやり方があるよ、こうしたらいいんじゃないか、というぐあいに利用の方法も身に付けていただければ幸いで、我々としてもありがたいことだなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長 亀田ふみ君

福田議員。

○7番 福田諒人君

ありがとうございます。

次に、救急救命講習について、質問します。僕は以前、学校で救急救命講習を受けたことがあります。人工呼吸や心臓マッサージなどのやり方を教えてもらいましたが、初めてのことばかりで、なかなかうまくいきませんでした。万が一のとき、うまく救命措置ができるように救急救命講習を受ける機会が増えればいいと思います。

そこで質問ですが、行橋市では、救急救命講習は年間どのくらい行われているのですか。

○議長 亀田ふみ君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 田中純君

お答えいたします。先ほどの答弁とも被ってしまうんですけれども、救急救命講習というのは、昨年はコロナでなかなか思うようにいかなかったんですけれども、通常の年ですと大体60回くらいやっています、1500人の方が受講をされています。もちろん救急救命といっても、そんなに素人が1回講習を受けただけで、すぐ実践の役に立つというふうには思っておりませんが、少なくともどうやればいいのか、やり方くらいは一定数の市民の方が周知をしていただければありがたいなという思いで、今申し上げましたようにコロナという特殊時期でなければ、年60回というペースですから、かなりのペースで救急救命の御指導を私どもの消防本部で資格を持った人間がお伺いして実地訓練をさせていただいている。通常の年であれば約1500人くらいが講習をされているということでございます。以上です。

○議長 亀田ふみ君

福田議員。

○7番 福田諒人君

ありがとうございます。僕は病気や事故などにより命の危険がある人を一人でも多く救うことができるようにするためには、たくさんの方が救急救命講習を受けることが大切だと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。